

# ～地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業～

## 〔令和6年度実施地区〕 西川町吉川地区

### ■ 実施体制

- 実施主体：吉川地区
- アドバイザー：（合同会社東北野生動物保護管理センター）  
宇野 壮春 氏  
五十嵐 さやか 氏

### ■ 地区のプロフィール

- 地区内の戸数：272戸
- 主な被害作物：水稻、啓翁桜、野菜、果樹
- 主な加害鳥獣：イノシシ、ツキノワグマ



## 1. 取組のきっかけ

- 吉川地区は町内随一の水稻耕作地であるほか、生産量日本一の啓翁桜の園地を有する農村集落である。しかし、近年、イノシシによる水稻被害や啓翁桜園地の掘り起こし被害が急速に拡大しており、農業者の収入減少や営農意欲低下を招きつつある状況であった。
- これまでは個人で電気柵による防除や、実施隊で捕獲活動を実施してきたが、被害軽減に至らず、有効な対策が必要とされていたことから、当該地区を地域ぐるみでの活動地区に設定し、本格的な被害対策を行うこととした。

地域ぐるみ事業とは別に先駆けて実施！

## 2. 取組の内容

- **イノシシ等の生態・被害対策の研修会の開催(R5.12月)**  
被害があるイノシシやクマに対する理解が不足していることから、アドバイザーによるイノシシ等の生態や、電気柵等を用いた効果的な被害防除についての研修を行った。
- **関係者による事前打ち合わせ (R6.6月)**  
地域の役員、猟友会、アドバイザー、県、町職員が集まり、地区の被害の現状や、これまで実施した被害防止対策の確認、今後のスケジュール等について打ち合わせを行った。
- **電気柵研修会の開催 (R6.8月)**  
12月の研修をきっかけに補助金を活用して、地域ぐるみでの電気柵整備を行った。  
設置された電気柵を皆で点検し、アドバイザーより留意点や維持管理などを教わった。
- **鳥獣出没マップ作製・ワークショップの開催 (R6.12月)**  
前段でイノシシの生態について復習した。その後、鳥獣の被害・出没や電気柵・藪等の位置を落とし込んだマップを作成した。  
マップ作成後はワークショップを行い、住民同士で課題や悩みが共有でき、被害対策の意識向上に繋がった。



電気柵研修会 (R6.8月)



鳥獣マップ作成 (R6.12月)

## 3. 課題と今後の展望

- 今回のマップ作成やワークショップでは情報共有の重要性を実感したため、引き続き情報共有を行い、地域ぐるみでの意識向上を図っていく。
- 不要な果樹や藪について、地域ぐるみでの計画的な伐採・刈り払いを検討していく。
- 捕獲による防除については、地元猟友会を地区でバックアップしていく体制を検討していく。